

**1 資料名 もう負けないぞ (自作資料)****主題名 苦しいことから逃げないぞ【主として 1-(2) 勤勉・努力】****2 授業構成****(1) 資料の価値と魅力**

家族のため、社会のために働く力を持つ若者の中に、フリーターであったり、無業者であったりする人が少なからずいる現代社会において、その人たちの少年期に、どんな将来の夢や目標があったのだろうか。「私はこういう人になりたい」「こんな人を目標としたい」という、生き方のモデルを持って過ごしていたのだろうか。また、夢が叶わないと悟ったときに、挫折しながらも新たな目標を持つことの大切さを学んでいたのだろうか。偉人と呼ばれる人たちは、決して完璧者ではない。わたしたちと同じように悩み、苦しみ、辛い挫折を経験もしている。こうした人の生き方に触れることで、目標とする人物、生き方のモデルとなる人物が自分の中に入り、自らの人生の道標となるのではないかと考える。人は今より良くなりたい、成長したいと思うものだと考える。だからこそ、小学校段階で様々な人と出会い、人の生き方を学んでいくことで、夢や目標を持って過ごすことの素晴らしさを感じ、その人のどんな姿を自分の生き方に取り入れようとするかを考える、生き方を見つめる一つのきっかけとなるのではないかと考える。

低学年の児童に対して、人の生き方に触れ、その生き方に学ぶ道徳の授業は難しいのではないかという思いもある。低学年の児童に、実在する（実在した）人物に出会わせる資料は少ないのが現状であろう。しかし、本年 7 月に公表された学習指導要領解説には、多様で効果的な指導の一つとして伝記が挙げられ、実際に文部科学省の「わたしたちの道徳」低学年版には二宮金次郎の資料が記載された。このことから、人物に出会わせ、その生き方に触れることは低学年児童にも意義があるのではないかと考えた。また、低学年の場合は、人の生き方に触れる学習の入口と考え、子どもたちがよく知る人物であることが望ましいと考えた。そこで、先人の生き方に触れるとして、千円札に肖像が表されており、児童に比較的よく知られているであろう人物、野口英世を取り上げ、資料化して授業に臨むことにした。

**(2) めざす子どもの姿について**

本学級の児童には、未知のことに対してもっと知りたいと、本を読んで分かったことを友達や先生に話したり、疑問に思ったことを尋ねたりして、学ぼうとする児童の姿が多く見られる。学習を定着させるために自主学習に取り組んだり、分からない問題を解くために先生や友達に尋ねたりする姿も見られる。ところが、何のために勉強をするのかと考えたとき、勉強をすることの意味について考えたことのある児童はあまりいないだろう。低学年児童であるため、成績が上がったら褒められるから、テストで良い点数が取れたらうれしいからというように、今現在の満足のために勉強をする児童が多いと思われる。または、近い将来、中学や高校、大学の入学試験があるため、それに向けて勉強を頑張るという児童もいるだろう。もちろん、勉強に向かう理由がこうしたことであってもよい。しかし、勉強は夢を実現するため、そして自分のためだけでなく人に認められ、役に

立つ人間になるために生涯行うべきものであろう。そこで、まだ勉強することの意味について考えることが少ない低学年の児童に対して、苦しいことや辛いことから逃げないで勉強を重ね、自分の進むべき道に向かって努力を重ねた偉人、野口英世の生き方に出会わせることで、勉強することの意味を考えるきっかけとなるのではないかと期待している。

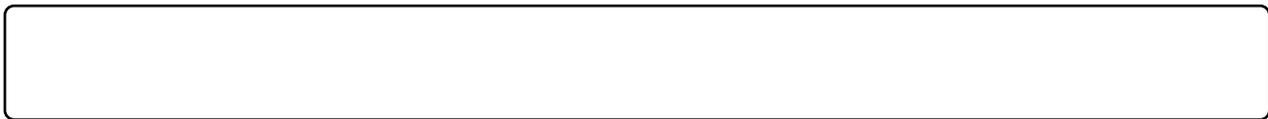
さらには、決められた宿題をしていくことができない、集中して学習に向かうことができないなど、勉強することに真剣に向かうことができない児童に対して、勉強することで将来の生き方の可能性が広がることに気づかせたいと考える。

### (3) 本時に向けた教材研究

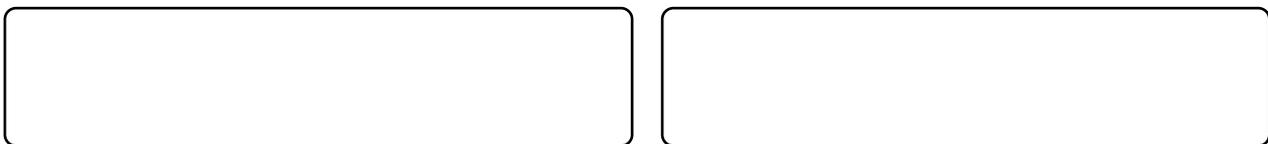
先人の生き方に触れ、生き方に学ぶためには、その人に出会うための資料が必要である。その人物の功績や良い面だけを扱うのではなく、人物の生涯がある程度見える資料を用いることが必要である。しかし、2年生の児童に持たせる資料であることを考え、資料の中心は幼少期とすることにし、自作した資料を扱うことにした。資料は事前に児童へ配布し、当日までに読み聞かせ、繰り返し読むことができるようにする。家庭で読むことで、家の人と関わることにもなると考える。学校図書館と連携し、公共図書館からお借りしたものも含め、英世に関連する伝記や著作物を教室に置き、児童がいつでも手に取れるようにする。また、年譜を作成し、児童に配布したり、事前に英世について調べたことを出し合う時間を設けたりして、英世の生涯が見通せるようにしておく。

この資料の中心は、学校をやめて母を助けると話す清作（後の英世）に対して母が諭す言葉を聞いた清作が、考えた末に翌日学校に行き、勉強に精を出すところである。母が清作に「負けるな」と諭しているのは、友達の冷やかしに対してだけではない。左手の大やけどという境遇に負けるなという強い気持ちもあるのだと考える。今のことだけを考えた言葉ではなく、将来を考えての言葉を母は清作に投げかけており、清作もそのことに気づいたのである。この場面についてしっかり考えさせることで、清作の勤勉な姿には、それを支えるものがあるということに気づかせたいと考える。中心となる内容項目を支えるものがあることに気づくことで、英世の更なる魅力に触れ、自分もこんな姿を目指したい、自分もこういう力を身につけたいと感じるものがあるのではないかと考える。

### (4) 内容項目のつながり構想図



- ・ 自分の生きる道から逃げず、苦しいことに立ち向かうことが大切だと理解し、勉強に打ち込む姿。



- ・ 自分のことを理解し、支えてくれたり援助してくれたりする人を思う姿。
- ・ 家族を養うために働き続ける母の姿を見て育ち、母を大切に思う姿。

左手に大やけどを負い、友達の冷やかしに負けそうになる清作に、母は自分の生きる道を示し、苦しいことに立ち向かうことが必要だと諭す。冷やかしに負けないという思いだけでなく、これからの自分には学問で身を立てることが大切であることに気づいた清作は、自分にとって大切なものは勉強をすることだと考え、冷やかしの言葉に耳を貸すことなく勉強に取り組む。そこには、いつも自分のことを案じ、大切に思いながら日々の仕事に精を出す母の姿があり、この母がいたからこそ勉強を頑張ろうという気持ちになったのである。また、母だけでなく自分のことを思い、支えてくれる人がいたことも大きい。こうして、人に支えられながら清作は勉強に励み、さらには医学の道に進みたいという夢を持ち、努力を重ねることになる。

### 3 本時について

#### (1) 本時目標

清作の心の支えになる思いについて話し合う活動を通して、苦しいことに負けず努力を重ねた姿に共感するとともに、その生き方から「自分もこうなりたい」という生き方を学ぼうとする心情を育てる。

#### (2) 準備 自作資料、掲示資料

#### (3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援 ◎評価)

学習活動	教師の意図・支援・評価
<p>1 野口英世の一生を振り返る。</p> <p>○ みんなが伝記で出会った野口英世はどんな人でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの頃に左手に大やけどをして、友達からからかわれてもまげずに勉強をした人。</li> <li>・ 立派な医者になって、研究を続けた人。</li> <li>・ 人々のために亡くなった人。</li> </ul>	<p>○ 自分の目標に向かって懸命に生きた人との出会いから考えるという観点から、英世の生涯に触れることができるよう、人物の大まかな一生を捉えられるような導入とする。</p> <p>◇ 学校図書館司書に協力を得て野口英世に関する書籍を準備し、学級内にコーナーを設置したり、彼の生涯について担任が話す時間も設けたりして、事前に人物に触れさせる。</p> <p>◇ 導入では、子どもたちがこれまで本やインターネット等で触れた英世の姿について発言させ、資料中にはない英世の生き方について共有できるようにする。</p>
<p>2 資料から、清作の姿について考える。</p> <p>○ 母シカが諭す話を聞いて、清作は何を感じたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくの将来のことを考えてくれているんだ。</li> <li>・ 友達のからかいに負けてはいられない。この左手をバネにがんばるぞ。</li> <li>・ 勉強をして、左手が使えなくても立派な人にならなくては。</li> </ul>	<p>○ シカが清作を諭すところがこの資料の中心である。清作が学校に行き、勉強に取り組む理由、もう負けないぞと意識を変える理由は、単に友達から冷やかされからかわれたことに対して負けたくないと思ったことではない。母の思いの中に、清作への職業に対する思いが見えたからである。そこを落とさないよう、児童の反応に問いかけたり切り返したりして、迫りたい。</p> <p>◇ 清作への母の気持ちの中に、左手の火傷に対する負い目もあるが、それよりもこの左手で清作が生きていくためには学問で身を立てるしかないという母の強い思いに気づかせるため、片手で働くことのできる仕事について想起させたり、野口家の生業としての農業に清作が従事することができるかを考えさせたりする</p>

<p>◎ 辛くても学校に行き、勉強に精を出した清作の心の支えになったのは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悔しくても負けるもんかと思う気持ち。</li> <li>・ 母の清作を思う気持ち。</li> <li>・ 毎日生懸命働いて育ててくれた母の姿。</li> <li>・ 立派な人になりたいと思う心。</li> </ul>	<p>○ 清作が自分の考えを改め、目の前の困難から逃げることなく勉強に打ち込むことができたのは、ただ勤勉であったということでは説明できないものである。この勤勉さを支えたものは何であるかを考えさせることで、清作の生き方の良いところについて考えさせたい。</p> <p>◇ 清作の心の支えになる人や物、考え方について発表させる。</p> <p>◇ 児童の発言から価値の関連が分かるように黒板にまとめる。</p>
<p>3 英世の生き方から考える。</p> <p>○ 清作（英世）の生き方から、「自分もこうなりたい」と思ったところはどんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦しいことから逃げ出さず、やるべきことをやる場所。</li> <li>・ お母さんに感謝しながら勉強に取り組む場所。</li> <li>・ こうなりたいという目標を持って学んでいる場所。</li> </ul>	<p>○ 英世の生き方の素晴らしさはどういうところなのかを考えさせることから、自分もそんな生き方をしたい、自分もそういう姿を目指したいという思いを持たせたいと考える。</p> <p>◇ 自分にも英世のような生き方ができないか、または自分にも英世のような生き方をしているところはないか、自分に置き換えて考えさせる。</p> <p>◇ 友達の発言から、同様の考え方の児童に発言させ、考えをつなげさせる。</p> <p>◎ 英世の生き方から、「自分もこうなりたい」と感じている。（発言、記述）</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>○ 英世はただ一生懸命に勉強しているのではなく、勉強しなくてはならないという気持ちを支えているものがあるのだということを説話として話す。</p>